

「新宇宙基本計画に盛り込むべき内容（素案）」についての意見等

基本政策部会の持ち回り開催において、「新宇宙基本計画に盛り込むべき内容（素案）」について、委員から提出された意見等は以下の通り。

【中須賀部会長】

<特段の意見等>

1) p.19 vii)で、「同盟国との協力等の代替手段」、というのがわかりづらいので、「同盟国による代替手段の提供の有無」あるいは「同盟国からの提供などの代替手段」とした方がいいのでは。

2) p.21 ii) 宇宙産業基盤の維持強化の観点から、のあと、防衛装備品に関する「研究開発ビジョン」を踏まえつつ、とありますが、防衛以外にも、たとえば通信放送分野での世界展開のビジョンなど、いろいろあると思いますので、「防衛装備品に関する「研究開発ビジョン」等も踏まえつつ」、としてはどうでしょうか。

3) p.23 iv) 法制度のところ、中間取りまとめにはあった、「民間事業者が健全な事業性を維持しながらも、衛星製造等の費用低減に合理的に取り組めるような調達制度の在り方について、諸外国の動向も踏まえつつ、検討を行う。」の箇所という項目が抜けています。これは、産業基盤維持に必要なことですので、ぜひ中間取りまとめのように入れていただければと思います。

【山川部会長代理】

概ね賛成であり、細部等については部会長に一任

【青木委員】

概ね賛成であり、細部等については部会長に一任

<特段の意見等>

今後調整されるとは存じますが、再度チェックをして意図とずれていないかを確認することが好ましいと考える箇所について一例を挙げます。12 頁ではスペースデブリ排出を抑制するための国際行動規範、と記され、24 頁ではスペースデブリの増加抑制や対衛星攻撃禁止等に関する国際行動規範、となっています。異なる文脈で論じられていますから必ずしもより整合性をもたせる必要もなく、また、意図があって書き方を変えているであろうとは思いましたが、念のために書きました。意見というほどのものでもありません。

【片岡委員】

概ね賛成であり、細部等については部会長に一任

＜特段の意見等＞

「16ページ 中段

・我が国宇宙インフラの抗たん性・即応性の観点から、**災害時等において**特定領域の頻繁な観測が可能な即応型の小型衛星等について、その運用上のニーズや運用構想等に関する調査研究に平成27年度に着手する。また、即応型の小型衛星等と情報収集衛星との連携可能性についても検討を行う。(内閣官房、内閣府、文部科学省、防衛省)」

「災害時等において」は不要と考えております。今後、安全保障上、極めて重要となる戦術用小型衛星（米国では TacSat, ORS などあります。もちろん、災害時にも活用可能です。）についても検討することが重要であり、災害時等に限定しないほうが良いと思います。

【久保委員】

概ね賛成であり、細部等については部会長に一任

【後藤委員】

概ね賛成であり、細部等については部会長に一任

【白坂委員】

概ね賛成であり、細部等については部会長に一任

【松井委員】

概ね賛成であり、細部等については部会長に一任